

## 9月20日 2回目の一般質問一問一答+まとめ

### リニア問題-1

**質問** 6月の一般質問で提案した工事の全体像の開示についてその後の取り組みは？

**答** 不可能ではない。検討する。

**質問**：6月の一般質問で、リニア新幹線工事全体について、全体像を村民ホールなどで開示することを提案した。その後の取り組みは？

**総務課長**：室長へ指示して進めている。施設の位置関係は当然だが、工事車両の運行ルートを表示できればと考えている。現在、飛島建設のJV担当の壬生沢戸中工区の運行ルートについて地元と調整中。運行ルートが決定したら掲示しようと考えている。要望があれば現状の施設関係図等々を掲示することも不可能ではない。意見を寄せいただければ検討する。

### 要 望

既に6月に提案をした。『リニアができれば』という前に工事がどう進んでいくのかをまず『知る』ということが大事。是非早急にやっていただきたい。

### リニア問題-2

#### 前回の質疑

**質問** 土砂の流出を抑制し、将来にわたって住民が安心して暮らすために、今、どんな方策が必要と考えるか？

**答** 盛土の安定性と地下水の排水設備の2点。JRの機能強化で安全性を承知している。

**質問** 6月の一般質問で『安全性を承知している。』発言の根拠は？

**答** 盛土が崩れない安定率を確保して設計されていると説明を受けている。

村には判断できる技術者がいないので、JR東海の説明により、安全性を認識して、最終的な判断は県、国の専門家を交えた機関で判断して頂く。

それで、改めて安全性を認識するという立場でいる。

**質問**：6月の一般質問で土砂の流出を抑制し将来にわたって住民が安心して暮らすために必要な方策について質問したところ、

『盛土の安定性と地下水の排水設備の2点が大切でJRの機能強化で安全性を承知している』と、総務課長は回答された。

6月に提示されたJRの計画で、総務課長が『安全と承知している』と、発言された根拠は？

総務課長：盛り土の安定性については、『林地開発許可申請の手引き』と国土交通省の『道路土工における盛土工指針』に基づく安定計算を JR 東海が行い、求められた計算結果に基づくと、兵庫県南部地震クラスの震度 7 クラスの地震が起きても盛り土が崩れない、安定率が担保されている設計内容であると、JR から説明を受けている。また、盛り土内の水位が盛り土の高さの 1/2 の水位まで達したような状態で震度 7 クラスの地震が起きて、大雨が降ってさらに大きな地震が起きた場合でも、盛り土が崩れない安定率を確保して設計がされているという説明を受けている。地下排水管の増設による強化、維持管理のための縦排水管、点検用のマンホール、地下水排水管用の補助管を設置で、盛り土内の水位が高くなることを防ぎ、安全面が確保されているということも、確認している。

加えて、万が一盛り土内の水位が下がらない場合には、集水井、また盛り土の側面などから水抜きのためのボーリングを行なうなどの安全対策も加えて準備されている、とのことであり、安全面には適切な配慮がされていると、村の方では認識している。

質問：わかりました。

JR からの説明によって、安全だと認識されたということによってよろしいのでしょうか？

総務課長：JR 東海の土木技術担当職員の方で、指針、基準に基づく設計で、村の方でもそれを判断できる技術者がいないので、JR 東海の説明により、安全性を認識して、最終的な判断は県、国の専門家を交えた機関で判断して頂く。

それで、改めて安全性を認識するという立場でいる。

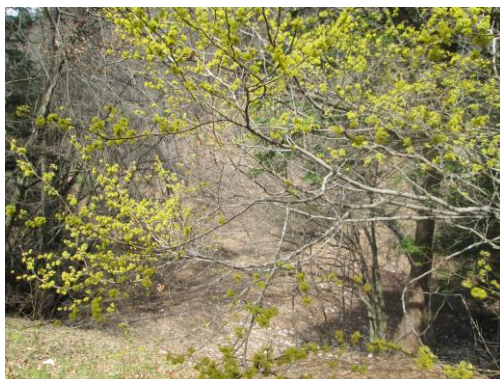
### リニア問題-3

**質問** 本山残土置き場計画について、まだ一般住民も、自由に質問や意見を発言でき、JR から明確な回答を得る機会が繰り返し必要と思うが。

**答** 不明な点は JR 東海に直接連絡できる筈。村の担当に個々に対応させる。

質問：下流域に関わる村民対象の説明会を 6 月の定例会で要望したが、7/25 に従来通りのリニア対策委員会を開催され、村は有線放送などで傍聴を呼びかけたが、傍聴者は説明を受けても発言権がない。また、当日目にした資料で説明を受け、その場で理解することは難しい。委員会の空気は、村の重鎮である区長や役場職員が多数を占めており、その他の対策委員が発言しやすい環境とは言えない。せめて対面式で一般住民も自由に質問や意見を発言できる場で、JR から明確な回答を得る機会が繰り返し必要と思うが。

村長は、残土を本山に置くことは苦渋の決断と再三発言しているが、決断するからには、JR の埋め立て計画の安全性に不安があってはならないと考える。村長は不安を感じられることはないのでしょうか。あるとしたら、どのように取り除かれるとお思いですか？



本山残土置き場の春

村長：リニア対策委員会の運営方法については、現状で適切に機能していると考えている。

自由に発言ができず、JR 東海から明確な回答が得られない旨、不明な点や意見などは、JR 東海へ直接連絡して頂けるよう、飯田工事事務所の電話番号などが開示されている。村のリニア対策室に意見などをお寄せいただければ、個々に対応させる。

JR 東海の造成計画については、安全が担保されており、説明も手順を踏んで適切に行なわれていると、村は考えている。今後は保安林解除に向けての行政手続きにおいて長野県、林野庁の審議会に審査をしていただき、改めて安全面のチェックがかり、(保安林の)解除が許可されれば、安全性についてお墨付きを頂けるものと認識している。

先日の NHK の番組で、村長が『意見のある方は JR や中部電力につながます』と語った。大変結構なことです。

### 本山残土置き場計画について、私の疑問

保水力のある表層に植樹をする、下部は排水性の良い盛土、という盛土自体の二層構造が問題。

次に、今回新たに付加した補助排水管は口径 300 mm で、本管 1000 mm だが、同時に敷設すれば、目詰まりと性能劣化は本管と同じ年月起こる。補助排水管の役目を果たすのか疑問。また、JR は 30 年を目途に管理するとしているが、管の経年劣化で 30 年後の方が、危険が増す。

次に、他の残土置き場について情報がある。下條村道の駅での谷埋め盛土は、盛土上の利用目的があり、9.3ha、盛土厚 15~25m、盛土量 100 万 $m^3$ 。

中川村半の沢は、高さ 40m、53 万 $m^3$ で上部は県道として管理される。

本山は残土を埋めるための谷埋め盛土で 130 万 $m^3$ 、8.5ha、盛土厚 25~50m という最大のもので、管理のための立ち入り以外、監視の目が行き渡らない。

気象や地震に対する管理基準が明示されていない、ということが問題。様々な施設の追加は、当初から安全と JR が説明した計画が不十分であることの証。地下施設を付加すれば付加するほど、管理負担が増える。盛土量と厚さを固定することで諸問題が発生している。

こうした疑問を単に、JR 東海や中部電力につなぐだけではなく、村も親身になって共に真剣に考えてほしい。それが予算にもあるリニア対策室に対する費用の、情報の共有であり、諸問題への対応ではないか。そのための時間も必要。虻川下流域の皆さんは、虻川の流れの音を毎日毎晩耳にしている。大雨の後の音には大変敏感になる。

### 要 望

村自体は、広域連携の中で (リニア) 推進側であっても、JR 東海の工事日程を最優先ではなく、住民ファーストで。この村は、工事期間だけではなく、この先未来永劫リニア新幹線と対峙して生きていかなくてはならない。生活の基盤である自然環境を守ることを最優先に。

時間をかけて真摯に対応することを重ねて要望する。

獣害防護柵の  
管理について-1

**質問** 獣害防護柵の設置の経緯と効果についてお聞きする

**答** 平成 23 年から 2 か年で

総事業費 1 億 3,200 万円総延長 24,360mの防護柵を設置  
設置前は、有害鳥獣・シカ・イノシシは 800~900 頭を捕獲。

**質問**：獣害対策防護柵の管理について

設置に至る経緯・範囲・管理規定・効果は？

**産業建設課長**：これまでの獣害対策は、個人、関係者個々が電気柵やネットで農地の周囲に設置していた。国において有害鳥獣対策として防護柵設置の補助メニューが創設。竜東地区においては飯田市上久堅地区～喬木村山間地域にいたる防護柵設置の方針が固まった。

豊丘村は平成 22 年 7 月野生鳥獣被害対策防護柵等設置検討協議会を設置し、協議を重ね、喬木村境から松川町境まで防護柵を設置することを決定。

23 年から 2 か年で総事業費 1 億 3,200 万円総延長 24,360mの防護柵を設置完了。

設置前は、有害鳥獣・シカ・イノシシは 800~900 頭を捕獲。

設置後は 1/4 程度に減少。現在に至る。

獣害防護柵の  
管理について-2

**質問** リニア関連工事で閉鎖されていた野田平キャンプ場が再開された。

今年 4/29~10/31 の利用状況は？

また、キャンプ場利用機関の獣害対策防護柵の管理は？

**答** 休業以前と比べると 7 割~8 割の減という状況。

7~8 月の 2 か月間、キャンプ場のトップシーズンにおいては終日開放

これで  
クマや  
イノシシは  
扉の外に出  
ないのか？



平面図（一般質問で使用）



戸中地籍の門扉 【夏期 7~8月 門扉開放中】

イノシシやシカは林道を通らないのか？

産業建設課長：2年間のブランクは大きい。4/29～8月末日現在37組412名。

休業以前と比べると7割～8割の減という状況。

学童保育やボーイスカウトなど団体の皆さんに、『何もないところがいい』生きる力を磨くには最高だ、とよく使われていた。この2年間に他のキャンプ場を探されて、戻ってきたのは1組2組（の団体）程度という状況。

防護柵の管理とは、林道大島虻川線の戸中地籍における門扉の管理の事と思うが、設置当初から、キャンプ場のお客さんが2000人～3000人は入っていたので、7～8月の2か月間、キャンプ場のトップシーズンにおいては開放しても、イノシシが入って来ないような対策を当初から考えてしている。門扉から野田平側の方に『返し』の部分を300m延長して設置。侵入防止対策を図りながら、7～8月の期間は開放する。今年も2か月の間開放。9月現在は締めている。

### 確認と要望

このフェンスの『返し』の効果がどうなのか？

～長野県地域振興局林務課の方のコメント～

『やつらは命のために餌を求めて、どうしたら楽に餌が採れるか、暮らしている。一か所でも開いている。しかも夜間も開いていることは問題だ』

産業建設課の業務はとても幅広く、山林に入る目的も多岐であり、例えばキャンプ場関係、狩猟関係、キノコ関係、里の農地の農業振興などの観点で担当している職員が、柵の本来の目的、基本事項を理解した上で、どう運用していくべきか。

『7～8月は全面開放と聞いております』…それでいいのか？という疑問がある。いろいろな事業が交錯する中で、山が守られ、農産物が守られていく。

連携や共通認識を持ってもらう事が大切。

福島てっぺん公園  
駐車場計画について

質問 リニア関連工福島てっぺん公園駐車場計画について

その後の進捗状況は？

答 現在測量業務に入っている。10月に第1回の会議を計画している。

質問：6月定例会一般会計補正予算で、てっぺん公園の駐車場計画にJRから1,510万円の歳入と測量調査費1,436万円の歳出が盛り込まれた。駐車台数100台、ヘリポートの整備などだったが、その後の進捗状況は？

産業建設課長：現在測量業務に入っている。周辺の測量、地質の調査を実施している。調査が終われば、駐車場の規模、あるいは安全対策、地元の皆様とも、防災機能ももった施設にしていくか、今後調査結果、測量成果に基づいて計画を策定していく。10月に第1回の会議を計画している。

三園合同保育園  
七夕まつりについて-1

**質問** 各園で開催されていた七夕まつりはどのようなプログラムで行われていたのか？ また、合同開催に移行した経緯は？

**答** 各園開催七夕まつりは運動会さながらのハードなプログラムだった。

合同開催は職員から提案 三者の負担軽減のため

- ① 保護者役員の当日の作業。
- ② 園児にとっても、猛暑の中での毎日の練習、催しに向けての制作
- ③ 保育士の事前準備・当日作業

→ 「がんばる行事」から「楽しむ行事」へ

**質問：**以前は南・中央・北の各園で開催されていた七夕まつりだった。各園ではどのようなプログラムで行われていたのか。また、合同開催に移行した経緯は？



今年の花火大会の様子

各園で開催していた時のプログラム  
開会式 理事者、園長のあいさつ 七夕の歌  
催し物（お化け屋敷や、お御輿、ゲームコーナー）  
園庭、学年ごと、全体、親子で2曲、計6曲のリズム  
花火鑑賞（保護者が花火を打ち上げる）  
お店屋さんごっこ（8：30 過ぎに終了）

**こども課長：** 合同開催に移行した経過について。合同開催について職員の中から提案があった。検討の結果今までの**課題の解決につながる**という判断で、合同開催の方向が決まった。まず平成 26 年度末の保護者会、連絡協議会（保護者会の会長さん・副会長さん・会計さんの三園の会議）に提案。各園の開催を希望する声は一部あったが、**大方の方には了解を得た**。平成 27 年度の役員会にて説明を行い、各保護者には合同開催となった理由と、七夕祭りに対する保育園の方針をお知らせした。先ほど申し上げた課題解決とは、合同開催によって役員さんの当日の作業が減った。それにより全員の子どもが大好きなお父さんお母さんの膝の中で一緒に花火を見ることができるようになった。園児にとっても、猛暑の中での毎日の練習、催しに向けての制作など、**がんばる行事であったのが、楽しい行事にかわった**。この夏もプール遊びを思い切り楽しめた。村の宝物である、豊丘の大事なこどもが、村の中心の広場に集まって、村内3保育園の垣根を越えてみんなの催しになっている。喜ばしいことだと思う。

## コメント

保護者の負担は、共働きの家庭も多く、お母さんたちは大変忙しい。花火大会にはお父さんも出勤しないと支えられないという状況だと思う。私は飯田の小さな保育園にこどもを4年半預けていた。そこで感じたのは、花火を見る際に親子で一緒にいると後部に位置したこどもは見えなくて立ち見になる。その保育園では子どもは前のシートにお友達と一緒に座って、お母さんたちが後ろで子どもが見える所に座っていた。花火や催し物以外では親子で一緒にいることができるし、花火の時だけ子どもと親が別の席にいることは、大きな問題とは考えづらい。保護者の負担の軽減が大きなことだと思う。ただ、私もこの盛り上がっている七夕まつりを楽しく拝見していたが、**そうではない・・・というお母さんのお話も聞いた**。三園全ての子どもが集まると、どこへ飛んで行ってしまうか、お母さんは不安だという声も聞いた。いつもどおりの保育園での花火大会は、おうちで楽しむ花火と違って、おともだちと一緒に楽しんで、保護者同士も子供に目を配りながら交流できたことにメリットがある。役員の子どもにとっては、お父さんお母さんは大変だが、自分のお父さんやお母さんが、みんなの前で活躍して、おともだちから『あれ、誰のお父さん？お母さん？』と言われるのが、誇らしい機会でもあったと思う。

### 三園合同保育園 七夕まつりについて-2

**質問** 高齢者の中では、地元の保育園で七夕祭りが無くなったので、悲しがる声も聞く。来年は合同開催から6年目となるが、メリット、デメリットをどのように整理して、検討する予定はあるか？

**答** 今年のお祭りが終わった後の保護者からのたよりに、一件も各園でやってほしかったという意見はなかった。保育園の主役はこども。

**質問** 保護者の負担が大きいなら、小学校のように地元の方にサポーターになっていただくこともできるのではないかと。地域と一体化したお祭りになる。地元の高齢者の中では、地元の保育園で七夕祭りが無くなったので、悲しがる声も聞く。実際は統括する保育園の保育士さんが一番負担ではあるが、来年度は、合同開催から6年目となる。メリット、デメリットを整理して、検討する予定はあるか？

**こども課長**：連絡帳やアンケートでは、そのような内容の事をおっしゃるお母さんもおりました。各園開催の要望も以前は少数でありました。今、『以前』と申し上げたのは、今年のお祭りが終わった後のたよりに、一件も各園でやってほしかったという意見はなかった事で確認している。大多数の回答は、開催方法に対してではなく、『子どもが笑顔で楽しそうに参加していた』という内容。連絡帳等での保護者の意見の反映ということだが、保護者の意見は七夕祭りや夏のお祭りに限らずに園長主任会や職員会で共有をしいる。お祭りのこれからの在り方は、こうやらなくてはならない、ということは決まってはいるが、保育園の主役はこどもだと考えている。保護者の要望も加味し、こどもが楽しめる内容を考えていきたい。